

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-192	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	論国・104-902	高等学校 論理国語		

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。
- 論理的・批判的・創造的思考力と、他者との関わりの中かで自分の考えを深化させる力を伸ばす。
- 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第一章		
■ 反対語から考えを深める	・ 概念の輪郭を明確にするために「反対語」を考えることの意義について論じた評論により、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	12 頁～17 頁
新しい認識	・ 本物の貨幣と偽物の貨幣について論じた評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号) ・ 主体的、能動的に「驚く」ことの重要性を論じた評論により、創造性を培い自主および自律の精神を養えるようにした。(第2号)	18 頁～36 頁
美の感覚	・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号) ・ 「日本文化における『いき』」というテーマの評論により、我が国の伝統と文化、および他国の伝統と文化をともに尊重する態度を養うことを意図した。(第5号)	37 頁～55 頁
社会のあり方	・ 「生きる意味を育むコミュニティ」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号) ・ 科学と生命に関する評論により、真理を求める態度、生命を尊ぶことの重要性を学ぶことができるようにした。(第1号・第4号)	56 頁～79 頁
言語と論理	・ 「オノマトペ」「日本語の論理性」に関する評論により、日本語表現の奥深さを実感し、我が国の伝統と文化、および他国の伝統と文化をともに尊重する態度を養うことを意図した。(第5号)	80 頁～101 頁

近代と大衆	<ul style="list-style-type: none"> ・「消費社会」の変遷を「感覚史」という観点で分析した評論、現代社会の仕組み・構造を「スポーツ」という観点で分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号) 	102 頁～121 頁
人間と自然	<ul style="list-style-type: none"> ・「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号) ・地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号) 	122 頁～145 頁
人間の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の「自由」を芸術作品と関連付けながら論じた評論により、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うことを意図した。(第2号) ・「友情」について文学作品と関連付けながら論じた評論により、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを意図した。(第3号) ・近代日本の文学作品を、作者の生きた明治という時代と関連付けながら論じた評論により、我が国の伝統と文化、および他国の伝統と文化をともに尊重する態度を養うことを意図した。(第5号) 	146 頁～234 頁
第二章		
現代へのまなざし	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の「自律性」は「近代」に確立したことを論じた評論により、幅広い知識と教養を身に付けることを意図した。(第1号) ・「利他」「贈与」について述べた評論により、自他の敬愛と協力を重んずる態度、個人の価値を尊重する態度を養うことを意図した。(第2号・第3号) 	236 頁～253 頁
異文化と普遍	<ul style="list-style-type: none"> ・翻訳に関する評論、自文化を相対化して他文化を理解する重要性を訴える評論により、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号) 	254 頁～271 頁
情報と人間	<ul style="list-style-type: none"> ・事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号) ・情報社会に生きることについての評論により、文系・理系の枠にとらわれず、幅広い分野の知識と教養を身に付けることを意図した。(第1号) 	272 頁～289 頁
私たちの身体	<ul style="list-style-type: none"> ・「環世界」「使用」という観点から人間の「身体」について哲学的に考察した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号) 	290 頁～309 頁
近代という枠組み	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本社会の構造を分析し、近代的な自由の意味を問う評論により、正義と責任などを重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号) 	310 頁～329 頁
比較と考察	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設としての図書館のあり方について述べた評論により、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号) ・私たちの「名前」と「アイデンティティ」に 	330 頁～363 頁

	<p>ついて述べた文章により、個人の価値を尊重し、正義と責任を重んじる態度を養うことを意図した。(第2号・第3号)</p>	
社会の中の言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・学問と政治の関係を論じた評論により、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号) ・「利害関心」の功罪と「正義」「寛容」の重要性を述べた評論により、正義と責任を重んじつつ、公共の精神に基づいて主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号) 	364頁～381頁
人間という存在	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境保全について論じた評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号) ・「人間の意志や選択」についての評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度、自主及び自律の精神を養うことを意図した。(第1号・第2号) 	382頁～398頁
考えの表出	<ul style="list-style-type: none"> ・労働の意味を考察する評論により、自主・自律の精神を養うとともに、職業と生活との関連を重視し勤労を重んずる態度を養うことを意図した。(第2号) ・資料を分析して情報を整理する活動、レポートの内容・構成を考える活動により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うこと、創造性を培うことができた。(第1号・第2号) 	399頁～424頁
表現編		
社会的なテーマを設定し報告書を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号) 	426頁～431頁
実社会に関する文章を読み小論文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身に付け、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができた。(第2号) 	432頁～437頁
資料編・見返し		
表現キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考」「動作」「感情」「物事の様子」に関する複数の語を、各語の意味の違いに注意しながら確認することで、日本語表現の奥深さを実感し、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号) 	438頁～447頁
評論キーワード・ズームアップ 評論テーマの理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・主に論理的文章・資料などで扱われるキーワードをまとめ、各テーマの背景知識について深く掘り下げて解説することで、抽象的かつ論理的な思考力を身につけ、自国および他国の文化・社会への理解を深められるようにした。(第1号・第5号) 	448頁～463頁
見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。(第1号) 	前見返し 後見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるようなコラム（「チ

ェックポイント」「ズームアップ」「解説」)を随所に掲載した。

- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-192	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	論国・104-902	高等学校 論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1)収録教材・コラム的要素

- ・現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。
- ・「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読解したり表現したりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。
- ・教材の読解から発展させて、教材のテーマについて理解を深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

* 言語と論理

オノマトペは言語か

今井むつみ・秋田喜美

「オノマトペは子どもじみた音真似であって、言語ではない」というのは、一般の人だけでなく、ときに学者の間でも聞かれる意見である。結論から言おう。オノマトペはいくつかの点で特殊でありながらも、あくまで言語であるし、一般語（オノマトペでないことば）との違いより共通性のほうが多い。なぜか。この問題を掘り下げていくことで、オノマトペの性質が見えてくると同時に、言語とは何かという大きな問題に対しての理解も深まる。「オノマトペは言語か」という問題を考えれば、必然的に「言語とは何か」という問題を考えることになるからである。

オノマトペが言語であるというのではない。日本語ではオノマトペが「かんでいる」のように副詞として現

チェックポイント 5

因果関係と論拠

1 因果関係
ある事象Aによって事象Bがもたらされるとき、AはBの原因、BはAの結果である。このとき、AとBは因果関係にあるという。因果関係は次のような文で表されることが多い。
・AだからBである。・AであるためにBが生じる。
・BなのはAだからである。

2 論拠の提示
ある根拠Aによって主張Bを導き出すことを論拠という。因果関係と同じように、根拠Aは主張Bをもたらすもの、つまり、主張を確実に支えるものでなければならない。
例えば、太郎「子さんに「昨晚」と言った場合、」

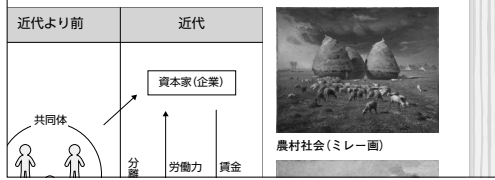
3 論拠の共有
根拠A
論拠
主張B
根拠

は次のような関係性には次のような関係性には
「太郎さんの言いたいことは根拠を主張に論拠とは、根拠から理由のことである。親しい関係の場合、互いの暗黙の了解で論拠を言い立てると、要ししかし、共通理解がこちらの意図した論拠を共有されたい」

ズームアップ

資本主義社会と本当の「豊かさ」

① 資本主義の仕組み
「資本主義」とは、「生産手段を私有する資本家が、労働者の労働力を商品として買い、その労働を上回る価値のある商品を生産して利潤を得る経済の仕組み」である。資本家・会社（経営者層）、労働者（サラリーマン）、と考えればわかりやすい。サラリーマンは、会社に勤め、そこで働くことで成果物を生み出し、その労働の対価として給料をもらう。企業は、サラリーマンに給料を支払う代わりに、彼らが労働によって生産した成果物を「商品」という形で販売し、利益を得る。この「商品」は必ずしも目に見える具体物とは限らないが、現代の企業は、基本的にこの論理で動いている。
近代より前の時代には、多くの人々は血縁的・地縁的な共同体の中で、生まれた場所や身分に強く規定されて生きていた。近代に入ると、人々はそのような束縛から解放されて、「個人



・本編教材とあわせて学ぶことで理解が深まる教材を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

科学の現場

坂井克之

科学研究においては、検証されるべき仮説の設定が大切になります。実験研究において大切なのは最初の問題設定です。仮説検証型の研究において、その目的をさらに明確なものにするために対立仮説が設定されることがあります。Xという出来事に対して二通りの解釈が可能である。このAという考え方を研究者は主張したいのですが、そのためにはもう一つのBという考えが成立しないことを証明しなければなりません。ここでのAという仮説と、Bという対立仮説が相容れないものであることが大事です。対立仮説が成り立つならば、当初の仮説は否定されるわけです。

この科学的な調整とは、会議、ある合戦さといえるのは二つが繰り返され、また同じ状況下で判定すること、協定を探り、科学において

次の文章あり方

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等				書く	読む	
		(1)	(2)	(3)	A 書くこと (1)	(2)	B 読むこと (1) (2)				
	反対語から考えを深める						ア	ア	12		3
新しい認識 一逆説的表現	【着眼】輪郭と空洞						オ		18		2
	ホンモノのおカネの作り方						ア	イ	20		3
	胆力について				ウ・エ	イ			28	4	
美の感覚 一主張の把握	【チェックポイント1】主張の明確化	ウ							36		
	【着眼】「文学の誕生」を演出する						イ		37		2
	手の変幻						エ	ア	40		3
	【ズームアップ】芸術作品の「多面性」			ア					47		
社会のあり方 一特徴的表現	「いき」の美学	ウ	イ		イ・エ	エ			48	4	
	【着眼】知識の体系性						オ		56		2
	「内的成長」社会へ						オ	イ	58		3
	【チェックポイント2】定義と抽象化	ア・イ							65		
	【ズームアップ】資本主義社会と本当の「豊かさ」			ア					66		
	科学と生命				ア	ウ			68	4	
言語と論理	【探究の扉】科学の現場				オ	ウ			75	2	
	【チェックポイント3】文体と構成	エ							79		
	オノマトペは言語か						オ	イ	80		4
	【ズームアップ】言語の音			ア					89		
	日本語は非論理的か				オ・カ	イ			90	4	
	【探究の扉】日本の論理				エ	ウ			97	1	
近代と大衆	【チェックポイント4】語彙	ア・イ							100		
	【チェックポイント5】因果関係と論拠		ア						101		
	感じる歴史						キ	オ	102		4
	【ズームアップ】大衆消費社会			ア					110		
	消費されるスポーツ						ア・イ	イ	112		3
	人間と自然	科学・技術の歴史の中での社会						エ	イ	122	
人間の可能性	【ズームアップ】近代科学の功罪			ア					131		
	野生の「クジラ」と人間の「鯨」						オ	オ	132		3
	【チェックポイント6】情報の視覚化		イ						142		
	【ズームアップ】地球環境問題			ア					144		
現代へのまなざし	可能性の溢れを生きる						ア・キ	イ	146		3
	「友情」と「悔恨」の文学				エ	ウ			156	4	
	漱石の多様性				ア	エ			181	4	
	【言語活動の実践】論文を書こう				ア・オ・カ	イ			230	5	
	【ズームアップ】「自由からの逃走」?			ア					234		
異文化と普遍	美の自律性						キ	オ	236		3
	【チェックポイント7】仮説と検証		ウ						243		
	手放すということ						ウ	イ	244		3
情報と人間	超えて行く翻訳	ア	ア				キ	イ	254		3
	「文化が違う」とは何を意味するのか?						カ	オ	262		3
	【ズームアップ】文化相対主義			ア					270		
私たちの身体	【具体】から「抽象」へ						キ	ア	272		3
	「自己デザイン」と「自己消費」						オ	ア	280		3
	【ズームアップ】情報社会と〈私〉			ア					289		
近代という枠組み	身体と環世界						ウ	イ	290		4
	【ズームアップ】「精神」と「身体」は分離できない			ア					301		
	使うということ						ウ	イ	302		4
	「である」と「する」こと						ア・イ	イ	310		4
比較と考察	【ズームアップ】「近代」とは何か?			ア					328		
	人と共にある図書館の未来は明るい						ウ・キ	エ	330		1
	図書館と「ものがたり」						ウ・キ	エ	334		1
	【チェックポイント8】多面的な視点		ア・ウ						338		
	個性とは何か				ウ	ウ			342		2
	他者の靴を履く				ウ	ウ			346		2
社会の中の言葉	【言語活動の実践】情報を整理して考察しよう				ア・イ	ア			362	5	
	学問の政治性						イ・エ	ウ	364		3
	関心を持つのはよいことか						オ・キ	オ	372		3
	【チェックポイント9】主張とその前提		ア						381		
人間という存在	環境と心の問題						ア・カ	オ	382		3
	【ズームアップ】近代科学とAI			ア					390		
	意志と選択	ウ	ア				カ	ア	392		4
考えの表出	人はなぜ働かなくてはならないのか				イ・エ	ウ			399	4	
	資料を分析して情報を整理する		イ		イ	ア			410	3	
	レポートの内容・構成を考える				イ・オ	イ			418	3	
表現編・資料編	社会的なテーマを設定し報告書を書く	エ			イ・オ・カ	イ			426	3	
	実社会に関する文章を読み小論文を書く	エ			ウ・オ・カ	ウ			432	3	
	表現キーワード	ア・イ							438		
	評論キーワード	ア・イ							448		

	ズームアップ 評論テーマの理解を深める			ア					456		
前見返し・後見返し	現代はどのような時代か？			ア					①②⑤⑥		
配当時数合計		A 書くこと								57	
		B 読むこと									83
		合計									140